

右大臣藤原良相の邸宅跡の実像

1、はじめに

(公財)京都市埋蔵文化財研究所 西田 倫子

(1) 右大臣藤原良相(図3)

(2) 藤原良相の邸宅跡

平安京右京三条一坊六町か四町か、2つの説がある(西三条第)

・西三条第の史料

① 西京図『拾芥抄』右京三条一坊六町に「西三条」(図4)

② 『日本三代実録』

貞観元年(859)4月18日条 皇太后が東宮から右大臣西京三條第に遷る

貞観2年(860)4月25日条 皇太后が右大臣西京第から東五條宮に遷る

貞観8年(866)3月23日条 清和天皇が良相西京第に幸す

貞観9年(867)10月10日条 藤原良相薨す

平安京左京六条四坊十六町(崇親院)

貞観元年(859)2月11日条 右大臣藤原良相が私邸内に崇親院を建てることを奏請した。

(『日本三代実録』)

2、平安京右京三条一坊六町跡の発掘調査

(1) これまでの調査 1982年～2011年の間に10次にわたる調査が行われた(図5)

・7次(2001年)調査…9世紀中葉の建物2棟

・8次(2006年)調査…9世紀後半の池

「齋衡四年三條院正倉帳」と書かれた題箋木簡出土(図6)

・10次(2011年)調査…9世紀後半の建物、池、溝など検出

池250から75点の墨書土器が出土

「三条院鈎殿高坏」墨書の高杯出土(図6)

三条院 → 西三条院 → 藤原良相の西三条第にあたるのではないか

(2) 11次(2019年)調査(図2・図5、図7～9)

・遺構(9世紀後半)

池(池750):池の北東部を検出。検出長は南北15m、東西7m。深さ0.4m。

洲浜は3～10cmの礫を約2.7m幅で丁寧敷く。礫の種類は、砂岩やチャートが中心。

岸部の傾斜は4～5° と緩やか。

東西2つの池を接続する溝(溝599):検出長さは20m。幅1.2m。深さ0.4m。

10次調査で検出した池250から池750へ向かって流れる。

掘立柱建物(建物1・2・4):建物1・2は池750の北側で検出。同規模で南北に位置をずらして建て替える。

身舎は2間×5間で南に庇を持つ。柱間は身舎は桁行・梁行とも8尺(2.4m)、庇の出9尺(2.7m)。

建物4は池750の東側で検出した。身舎が2間×3間で西・東・南に庇を持つ。

柱間は身舎は桁行・梁行とも6.5尺(約2m)、東・南庇が8尺(2.4m)、西庇が9尺(2.7m)

柵(柵3)

・遺物(9世紀前半～後半)

墨書土器、土師器、須恵器、黒色土器、輸入陶磁器、瓦、土製品、木簡、木製品、銭貨などが出土した。

池750からは9世紀後半の墨書土器、土師器、緑釉陶器、土製品(土錘・硯)、銭貨が出土した。

3、平安時代前期の庭園と住まい「寝殿造」邸宅成立以前の様相

(1)「寝殿造」とは

平安京左京三条三坊一・二町(東三条殿・図10)

10世紀中頃から11世紀初頭に成立する上級貴族層(三位以上)の住宅

寝殿を正殿とし、東西に対屋をおく。寝殿の北に北対がある。寝殿と対屋は廊・渡殿で結ばれる。

対屋から南へ中門廊がのび、途中に中門が開く。中門廊の先端に釣殿が建ち、池を臨む。

中門廊の内と外の二重構造。内が主人の生活空間であり閉ざされた儀式空間。

(2) 自然地形に影響される園池の立地と多様な建物構成

園池の形態は自然地形に左右され様々な様相を持つ。園池の眺望を意識した多様な建物構成。

閉ざされず開放的な空間。

平安京右京三条二坊十六町(斎宮邸・図11～14)

9世紀後半「斎宮」が居住した邸宅。池は北西部に東西15m、南北40mの池1とその南西部に池2がある。

池1の北端と中央部に泉があり取水源となる。池1と池2は溝でつながり、池の水は留まることなく流れていた。

池1の周辺には建物が配置される。建物の規模に差はみられず主殿は不明。

4、まとめ 平安京右京三条一坊六町の2つの池と宅地利用

調査地で検出した9世紀前半の湿地状堆積からみた土地環境。

2つの池の配置は北東から南西へ傾斜する地形に影響されている。

2つの池は規模と意匠が異なっている。

池750は東西約43m、南北27m以上で洲浜を持つ。

池250は東西18m、南北24mで洲浜はなく、深さは0.9mに達する。

溝599は建物の下を通り直線的に宅地内を流れ、総延長は48m。清らかな水が流れるよう工夫されている。

園池を中心に様々な建物群が存在するが、正殿と考えられる建物は見られない。

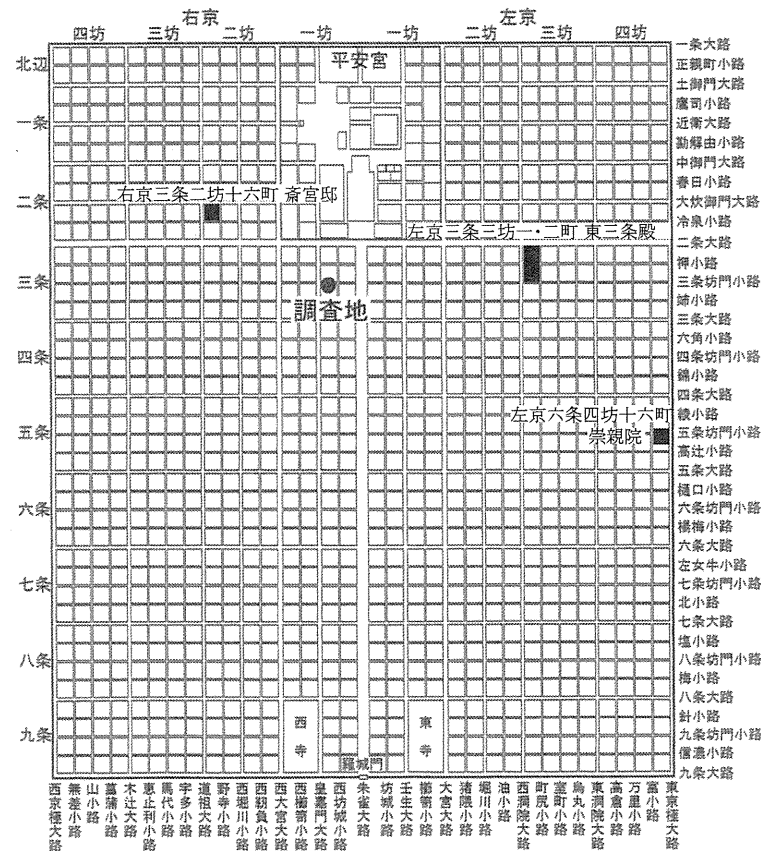


図1 平安京における調査位置と関連遺跡位置図

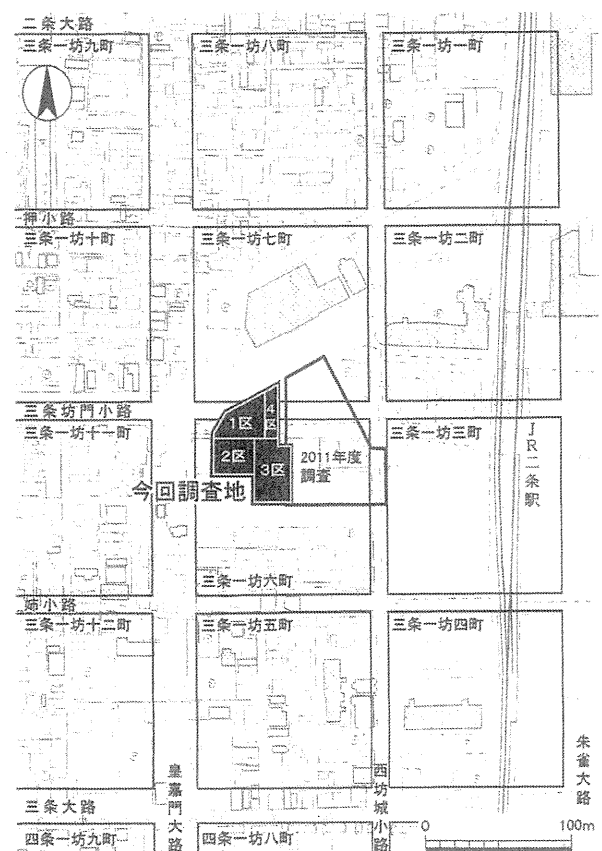


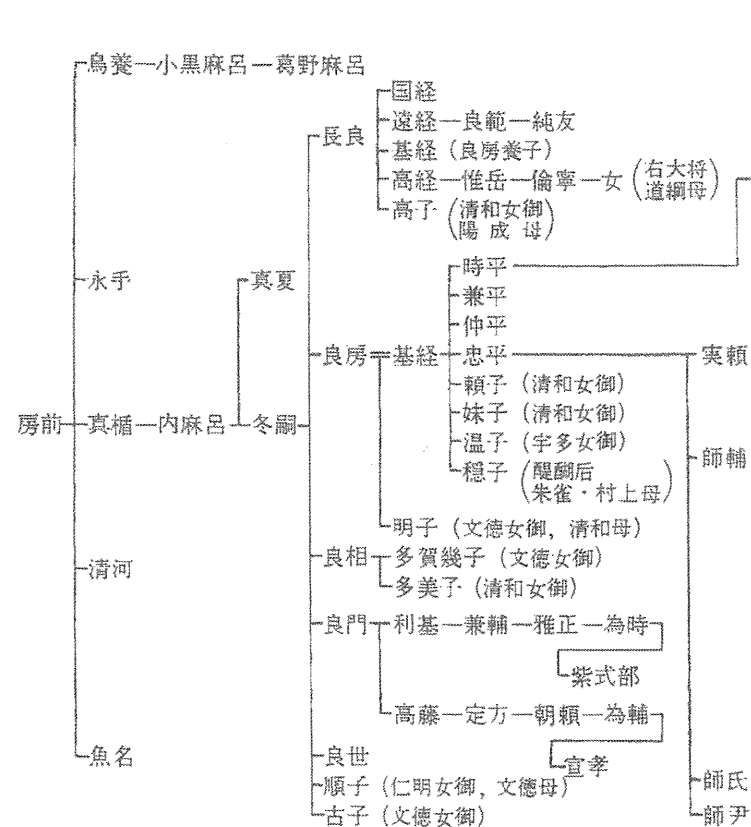
図2 2019年度調査位置図(1:5,000)

藤原良相・西三条第関係年表

承和元年(八三四) 禁中侍。右兵衛大尉。内蔵助遷。
 承和五年(八三八) 從五位下授。
 承和六年(八三九) 頭(内蔵頭)転。因幡守兼。
 承和八年(八四二) 小頃。左兵衛少将遷。内蔵頭。因幡守故如。
 承和九年(八四二) 從五位上享授。
 承和十年(八四三) 七月十五日。嵯峨上皇が嵯峨院で崩御する。
 承和十三年(八四六) 七月十七日。伴健岑、橘逸勢らが謀反。(承和の変)
 嘉祥元年(八四八) 七月二十三日。藤原良相、近衛兵四十人を率いて皇太子の直曹を守る。
 嘉祥二年(八四九) 正五位不加。阿波守遷。内蔵頭。左兵衛少将故如。
 相模守兼。參議拜。
 秋。右大弁拜。相模守故如。
 嘉祥三年(八五〇) 三月。文徳天皇が即位し、惟仁親王が立太子、藤原順子が皇太夫人。
 從四位上授。
 數月。正四位下加。陸奥出羽案察使尋領。未幾。
 左大弁兼春宮大夫遷。
 從三位授。權中納言拜。
 大納言兼右近衛大將転。藤原順子が皇太后。
 正三位進。
 右大臣拜。
 從二位授。遷左近衛大將。
 二月。藤原良房が太政大臣になる。
 八月。文徳天皇が没し、清和天皇が即位。
 正二位授。
 四月十八日。皇太后藤原順子が東宮より西三条第に遷御。
 四月二十五日。藤原順子が一年間滞在したのち東五条宮に帰る。
 正月。藤原順子が太皇太后宮となる。
 三月二十三日。清和天皇が藤原良相の西三条第(百花亭)に行幸。
 閏三月一日。清和天皇が藤原良房の染殿に行幸。
 閏三月十日。応天門と左右の樓閣が焼亡(応天門の変)。
 八月三日。大宅鷹取が申し出て伴善男が放火犯となる。
 八月十九日。藤原良房が摂政になる。
 十二月八日。藤原良相、表を抗し、職解を請う。
 十月初。直虜に病を得、里第に退く。
 十月十日。藤原良相没(五十五才)。
 貞觀九年(八六七) 二月十七日。藤原常行没(四十才)。
 貞觀十七年(八七五) 散位從四位下大江公仲。配流の際の財産処分場が作成される。
 嘉保二年(一〇九五)

池250・池750出土
 土器の年代

『平安遺文』第一三三八号



『角川日本史辞典』 角川書店

図3 藤原氏系図(『角川日本史辞典』角川書店)

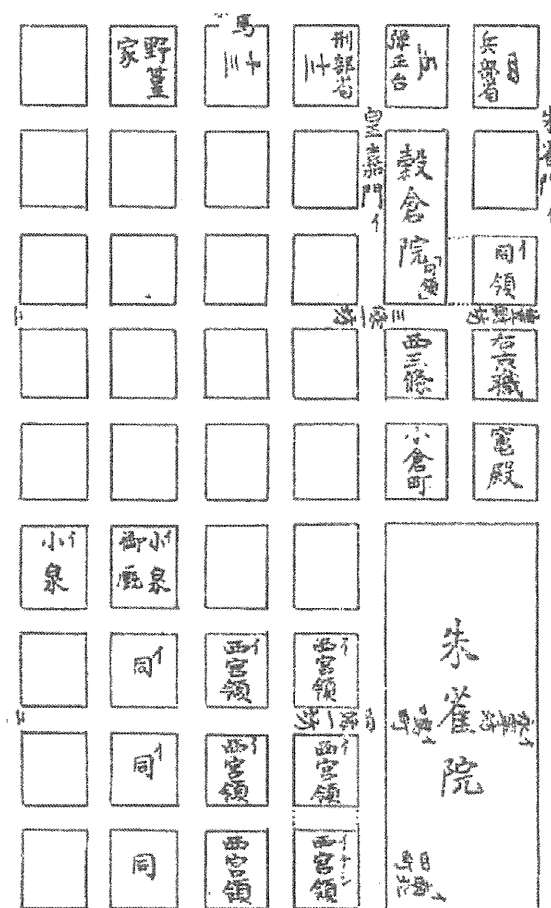


図4 西京図『拾芥抄』

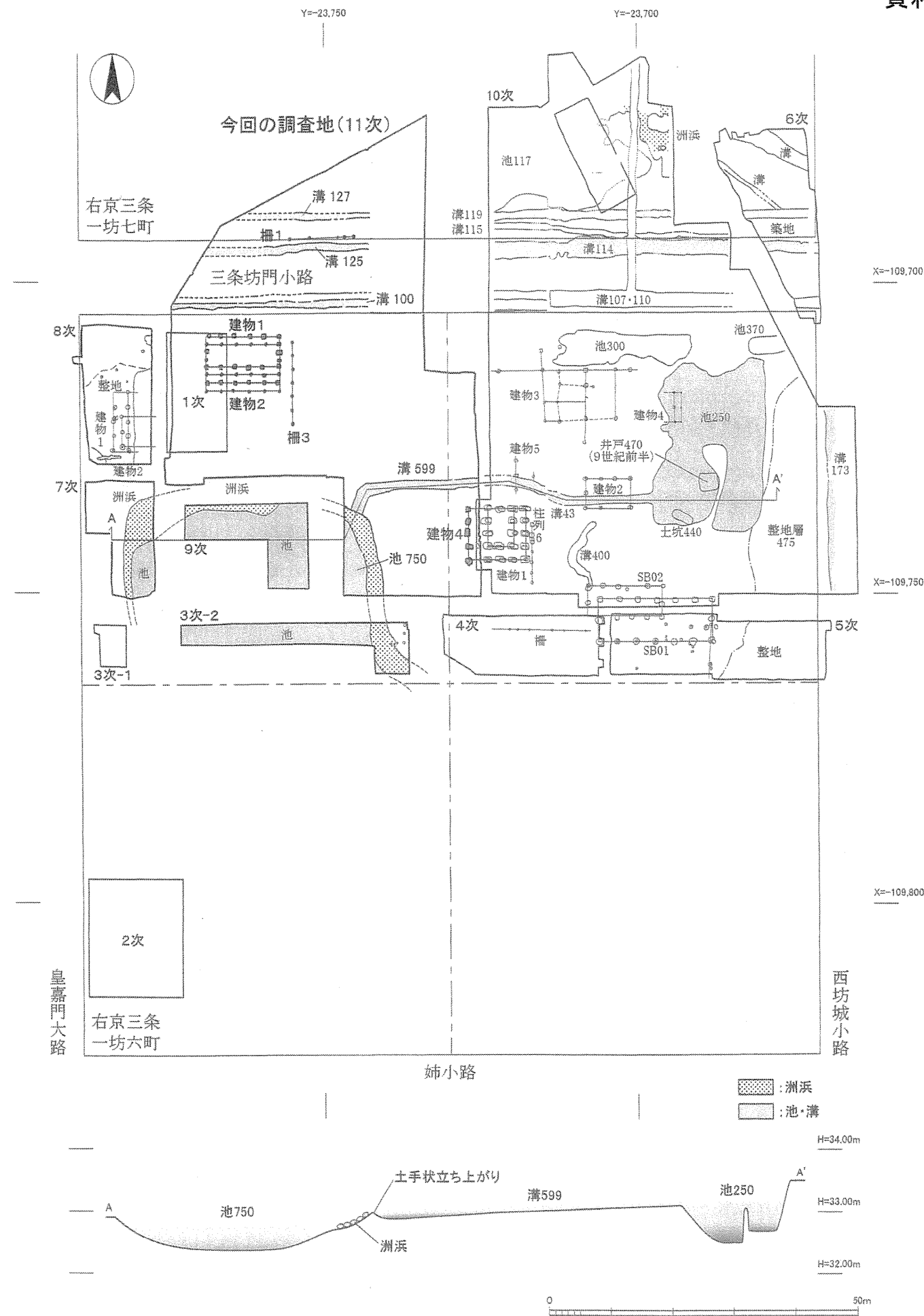


図5 平安京右京三条一坊六町付近の主要遺構(1:800)と池・溝断面模式図(縦1:80、横1:800)



図6 「斉衡四年三條院」題箋木簡と「三条院鉤殿高坏」墨書高杯



図7 11次調査溝599と池750合流部
(南西から)



図9 11次調査3区全景(北から)

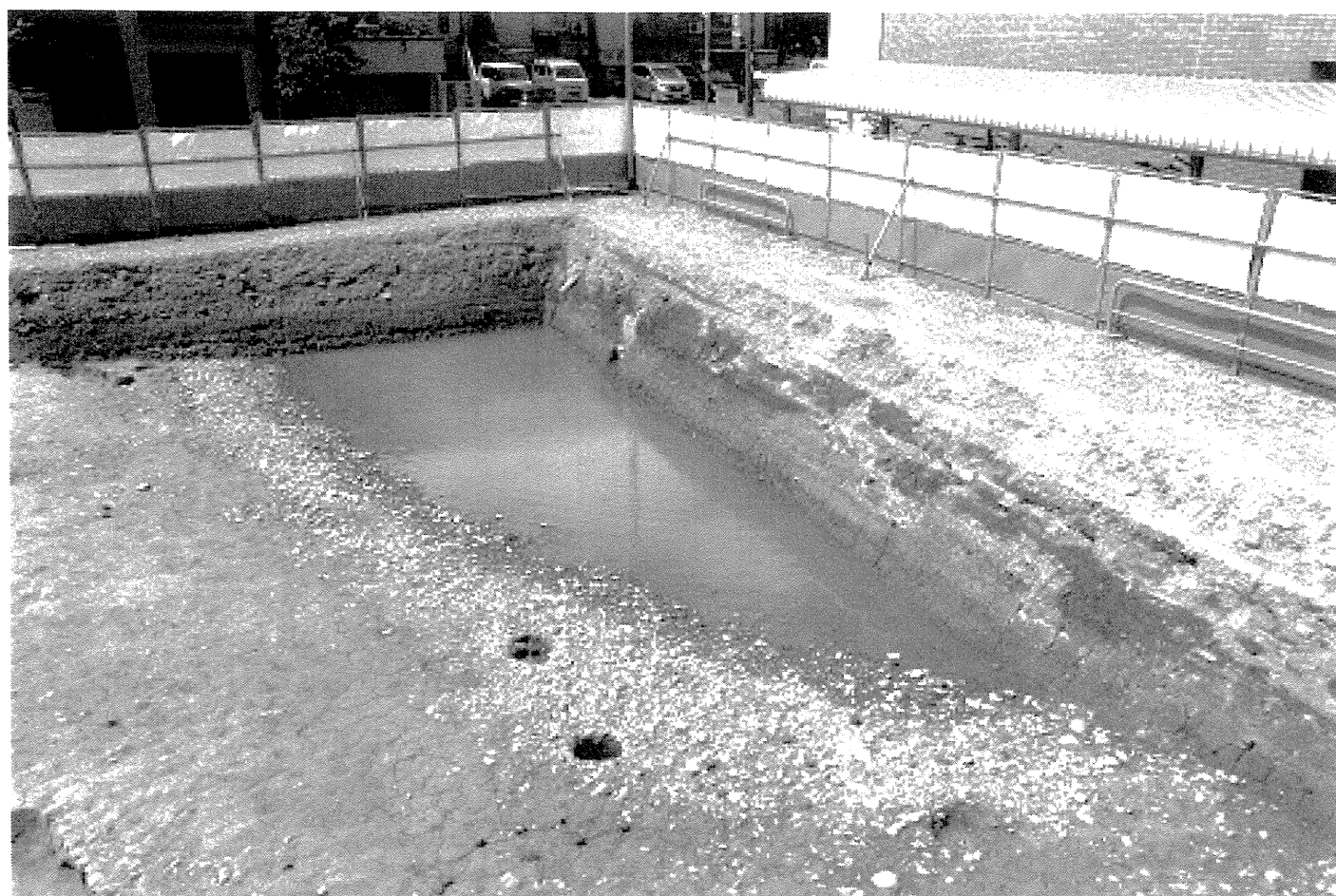


図8 11次調査池750(北東から)



図10 東三条殿復原模型(京都府京都文化博物館所蔵)

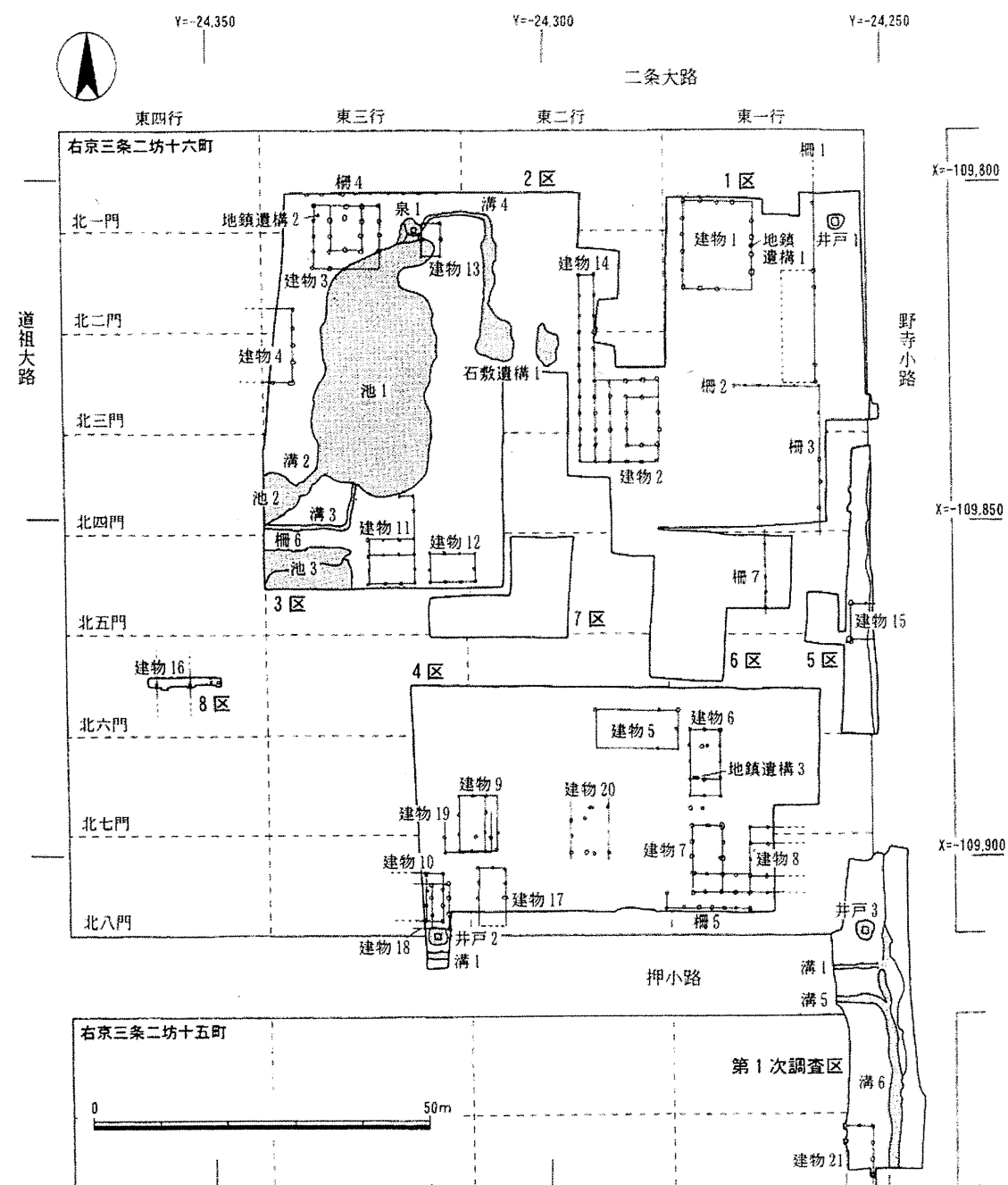


図11 平安京右京三条二坊十六町跡遺構図



図12 池1北岸部から西岸部洲浜



図13 泉1新段階

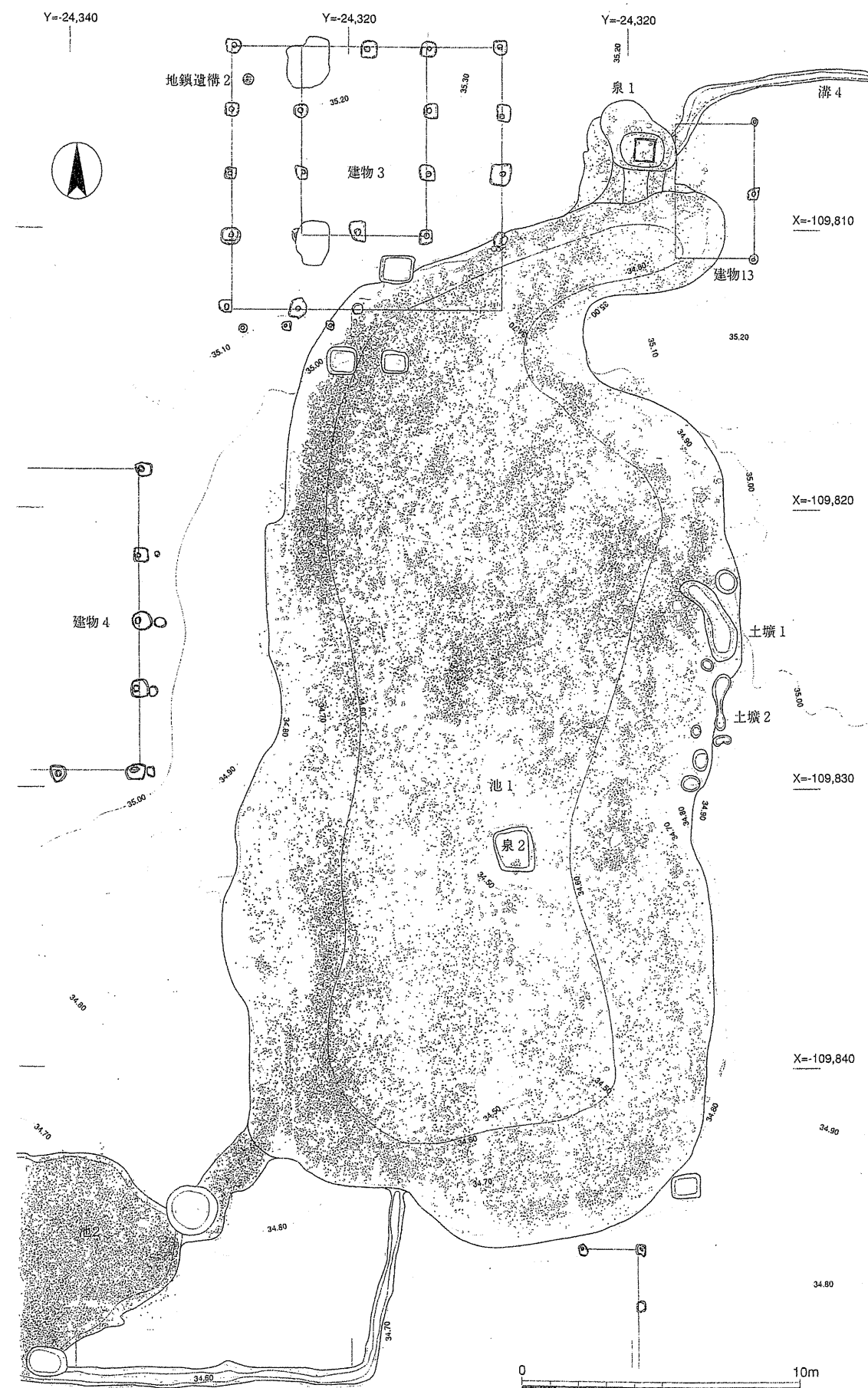


図14 平安京右京三条二坊十六町園池平面图